

ヤマハツカの種類で白花のことです。  
葉の形が薄荷(はくか)に似て、山野に咲くことから「山薄荷」の名前があります。  
平安時代の古書「本草和名」の中に、中国で云う「薄荷」とは、我が国での「めぐさ」に相当するらしいと書かれています。又、山菜として「波加」の字が当てられています。薬用として「ハクカ」の名前が定着し、転訛して「ハツカ」になったとされています。  
山地の草地や林縁に普通に見られますが、「白花ヤマハツカ」は稀にしか咲きません。  
葉腋から花柄を出し、唇形花の花を何段にも付けて咲かせます。上唇は四裂し、中に紫色の斑点があり、下唇は突き出て、中に雄しべと雌しべが入っています。  
葉は対生し長さ三〜六センチ位、広卵形で葉柄には翼があり、葉縁には粗い鋸歯があります。  
茎は四角形で四十〜百センチ程になります。  
◆ハツカの名前が付いていますが、ハツカのような香りは無く、やや苦い味がします。

(撮影・文 中村 殺人)

### 四季の草花

102

シロバナヤマハツカ 白花山薄荷

シソ科・ヤマハツカ属



が無くなりますようにお守り下さい。」と願い、出立しました。道中では、身を清める胎内くぐりを吉田胎内にて行いました。  
富士登山口(馬返し)より五合目佐藤小屋までの道中では、要所所で先達より六凡行のお授けを頂きました。この六凡行の中には、石を持ち上げ業の重さを量り、業が深ければ深いほどその石は動かないと先達より説明を頂きました。胎内くぐりて罪穢れを祓い落とし臨んだはずが、どんなに力を入れても動かない、自身の業の深さに驚愕しました。  
二十六日、五合目より八合目までの道中を漢字二文字で表現するのであれば、必死でありました。段々と呼吸は苦しくなり、足は思うように前へと進まない。苦しい、辛い。弱い心が気持ち全体を支配しようとする。その度、思いつくのは下道で帰山された参加者の思い、代参

守りを託して頂いた御信徒の皆様のお思い、御本尊様の誓い：等の、様々な思いや誓いが重たい足を一歩、また一歩と突き動かす。また道中、山小屋の方々からも優しい声をかけて頂き、時にはお茶の接待を頂きました。本當に有難うございました。  
翌日、無事に山頂へと辿り着きました。恐らく一人の力では決して山頂まで辿り着くことは出来なかつたことでしょう。道中をともにした参加者思い・誓い、富士山で出会った方々がいるからこそ、富士山頂へ辿り着くことができました。いえ、本當は着かせて貰えたのだと思っております。山頂へと辿り着いた時、自然と感謝の気持ちが溢れてきました。  
おかげさまを持ちまして、本年度は天候にも恵まれ、一人の怪我人・脱落者も出ることなく、無魔成満致しましたことをご報告致します。

**富士登拝代参のご案内**  
この代参守は、高尾山から続く祈りの道を、修験者によって運ばれ、霊峰富士山頂にて法楽し、本年一年の、諸縁吉祥・諸願円満の為に、ご祈念致します。  
(授与料) 一休巻千円以上(代参守と碑伝合わせて) (申し込み方法)  
山上・御護摩受付所又は、葉書に郵便番号・住所・氏名(必ずフリガナを明記下さい。)電話番号を明記の上、左記までお申し込み下さい。  
※締め切は、七月末日とし、八月以降の申し込みは、来年度分とさせていただきます。  
〒一九三一八六八六  
八王子市高尾町二二七七  
大本山高尾山薬王院内  
富士事務局



## 第十箇度富士登拝修行記(2)

法務課 飯沢 隆秀

この度の富士登拝修行参加にあたり、大山御貫首を始め、当山職員の皆様、富士登拝修行関係者の皆様、そして留守を預かってくれた家族に、「本當にありがとうございます。心より感謝申し上げます。」

さて、恒例の富士登拝修行が、七月二十二日より二十七日までの六日間、亘って執り行われました。今回は富士登拝修行が始まった平成十九年度から数えて節目の十回目となり、参加者の総勢は二十四名でした。



石の重さに自らの業の深さを感じる筆者

行程は二十二日、蛇滝水行道場において、自身の心身を清める水行から始まります。駆入柴燈護摩供を菅谷執事長祇師のもと、諸縁吉祥・諸願円満の代参守りの御加持、並びに参加者の修行満足・道中安全・身上安全を御祈念致しました。  
翌日、早朝本堂にて高尾山御本尊飯縄大権現様の御宝前において、「富士山頂を目指し一生懸命邁進してまいります。」と誓いを立てました。その後、高尾山富士浅間社で行った出立式にて道中の安全を祈念し、当山の職員のお見送りを頂き、身の引き締まる思いで出発しました。  
参加者は、高尾山から富士吉田市の御師大國屋までの道中を、二日間かけて炎天下の中、徒歩修行に励みました。  
翌日より始まる登拝修行に向けて、御師大國屋にて参加者と合流をしました。諸事情により富士



一人の怪我人・脱落者も出ることなく無魔成満を達成できました

登山堂入り口で帰山をされる参加者の中には、目に涙を浮かべ私たちに思いを託して頂いた方もおりました。私は「この方の思いも共に山頂まで必ず届けよう。」と一層決意を固め、霊峰富士山頂を目指し、登拝修行が始まりました。  
二十五日の早朝、富士吉田北口本宮の祭神・浅間大権現様の御宝前において「これより登拝をさせていただきます。どうぞ大難が小難に、そして小難